BO

母学

GAKU

赤ちゃんを知る。

そして母になる。

入場無料

第一回母学会議

2016年10月21日(金)

12:00~13:30 丸ビルホール

〒100-6307 東京都千代田区丸の内 2-4-1 丸ビル 7 階

主催：東京藝術大学社会連携センター、
東京藝術大学 COI 拠点「絆を育む」グループ

共催：アップリカ育児研究所

基調講演

小泉英明　：株式会社日立製作所役員待遇フェロー
公益社団法人日本工学アカデミー上級副会長

パネルディスカッション

伊東順二　：プロデューサー、
東京藝術大学社会連携センター副センター長

葛西康仁　：アップリカ育児研究所 クリエイティブディレクター

北代美和子：翻訳家、仏文学者

仁志田博司：東京女子医科大学名誉教授

宮廻正明　：東京藝術大学大学院教授

新井晴み　：ナレーション、女優

Aprica Childcare Institute

三菱地所

GEIDAI INNOVATION

先着300名さまに小林登著「母学」を進呈

http://bogaku.jp/

第一回 BO 母子 GAKU 会議

―赤ちゃんとお母さんのための芸術体験―

「母」を学ぶ

心身ともに健康に生きるためには毎日の様々な環境の変化を受容しポジティブに捉えていく、感性の多様性が必要になる。それは心の柔軟性とでも呼ぶべきものなのだろうが、アップリカ育児研究所から出版された小林 登先生の「母学」は胎児から赤ちゃんたちの成長を段階的に観察し、それぞれの家庭の中で育児における健全な心身の成長を促すための心と体のスイッチの入れ方を合理的に解説する。

つまり、単なる胎教論や育児論と違って目に見えない母子の相互作用を科学的に論理的に説明しながら、生きるとは、もしくは心の在り方とは、という哲学、そして、感動という生命のモチベーションの言及にまで達しているのである。その提言は芸術の存在意義をも問うものだと思う。なぜなら母子の目に見えない相互作用、それは心の伝達というものであり、それを私たちは自身の中で生涯熟成していく。「母学」は多くの人が、時間が経つにつれ忘れかけた見えない絆を目に見える形でもう一度思い出させてくれる。そのような稀有な作業、そして存在が芸術と呼ぶべきものなのではないだろうか。だからこそ芸術は創造的で本質的な社会のイノベーションの源泉になりうるのだと思う。

素晴らしい母に誘う、それは芸術の成長をも意味している。その展開をぜひ体験していただきたい。

プロデューサー
伊東 順二

東京藝術大学特任教授。美術評論家。アート、音楽、建築、都市計画など分野を超えたプロデュースを多数手がける。1995 年「ベニス･ビエンナーレ」日本館コミッショナー、2005年～13年富山大学教授。08 年～12 年「金屋町楽市」実行委員長。前長崎県美術館館長。パリ日本文化会館運営審議委員。富山市ガラス美術館名誉館長。

イベントの流れ

12:00~12:10（10 分）
胎感芸術
おまもりうた：「誕生」
音響環境制作：マザープロジェクト

12:10~12:15（5 分）
主旨
伊東順二：プロデューサー
東京藝術大学社会連携センター副センター長

12:15~12:45（30 分）
基調講演
―脳科学から見た芸術と倫理―
小泉英明：株式会社日立製作所役員待遇フェロー
公益社団法人日本工学アカデミー上級副会長

12:45~13:30（45 分）
パネルディスカッション
「母と子の芸術」

小林 登

東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長、「母学」著者。世界小児科学会会長も務めた小林は、「日常生活のなかに優しさがなくなったとき、社会、ひいては国家が大きな問題を引き起こすように思えてならない。社会に優しさを取り戻すには、赤ちゃんのときから優しさを体験でき、生きる喜びいっぱいになることに尽きる。」と語り、現代社会に警鐘を鳴らす。

基調講演出演者プロフィール

小泉 英明

東京大学教養学部卒（理博）。現在、米国・中国・欧州など国内外の研究機関で、Board や名誉教授を兼務。日立基礎研究所所長、日本分析化学会会長など歴任。環境・医療分野で多くの新計測原理を創出し社会実装。米国 R&D100 賞（Oscars of Innovation）他受賞多数。編著書に『脳科学と芸術』他。

パネルディスカッション出演者プロフィール

五十音順

主宰
葛西 康仁

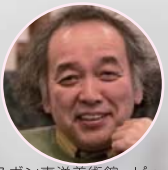
1953 年大阪生まれ。上智大学外国語学部卒。アップリカ育児研究所代表取締役社長。世界で初めて生まれた「父が子どもを抱きしめる服ベルパパ」でイタリア コンパッソ･ドーロ賞ファイナルノミネート、日本ではグッドデザイン賞を受賞。マスメディア広告では 2002 年から 5 期連続で毎日広告デザイン賞。広告電通賞など多数のデザイン・広告賞を受賞。

北代 美和子

1953 年、東京生まれ。上智大学外国語学部フランス語学科卒業。同大学院外国語学研究科言語学専攻修士課程修了。翻訳家・フランス文学研究者。東京外国語大学講師（翻訳学）。訳書に C･コスタンティーニ『バルテュスとの対話』、ジャン・ルオー『名誉の戦場』、M・デュラス『私はなぜ書くのか』（河出書房新社、2014）、他多数。

仁志田 博司

1942 年生まれ、74 歳、1968 年慶応義塾大医学部卒、1969～74 年米国（シカゴ大学・ジョンズ・ホプキンス大学）で小児科学・新生児学、1974～84 年北里大学小児科講師、1984～2008 年東京女子医科大学教授･母子総合医療センター長、1984～2008 年早稲田大学人間総合学部研究員（生命倫理）、2008～現在：東京女子医科大学名誉教授・北里大学客員教授・慈誠会病院名誉院長。

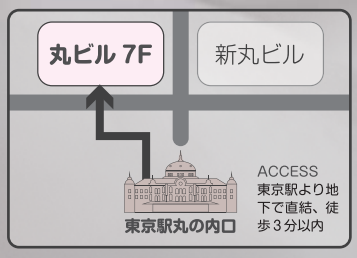


宮廻 正明

日本画家。平山郁夫に師事。春の院展で外務大臣賞、再興院展で文部大臣賞、内閣総理大臣賞を受賞。近年では、ロシア国立美術館、ブダペスト歴史博物館、リスボン東洋美術館、ピッティー宮殿近代美術館、マカオ CASA Garden Gallery にて個展を開催。現在、日本美術院評議員。東京藝術大学大学院美術研究科教授、同学社会連携センター長。

ナレーション
新井晴み

1977 年ＮＨＫ朝の連続テレビ小説「風見鶏」ヒロイン、エランドール新人賞受賞、産業カウンセラー日本文芸家協会会員、2010 年法政大学キャリアデザイン学部総代卒業　、1992～ 2000 年イタリアと日本で暮らす。、2006 年　福島県郡山市「いのちのでんわ」開設記念に一人芝居「エリカ」公演。2010 年ＮＨＫ「みんなのうた」「風がきれい」作詞



ACCESS
東京駅より地下で直結、徒歩３分以内